



一般社団法人 大日本武徳会

会報 武徳

2015.4 春季号



## 新春の御挨拶

大日本武徳会  
総裁

東伏見慈晃

平成二十七年度の新春を、会員の皆様、お健やかに目出度くお迎えのことお慶び申し上げます。

平成二十六年会報武徳秋季号では、父慈治前総裁の追悼事業と特集の記事をご編集賜り、役員諸先生方、全国の会員の皆様に対し厚く御礼申し上げます。

特に平成二十六年四月二十九日の第五十二回全国武徳祭は、総裁追悼大会と冠して、盛大に開催していただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。

本会から団体最優秀賞が設けられ大阪の日本古武道直心会様が第一回の栄えある賞に輝かれました。今後この団体賞獲得を目指し、各会の皆様が一層修練を重ねられることを祈念いたします。

本年は大日本武徳会創立百二十周年、戦後七十周年の節目の年となり、アメリカ支部におかれましては、五十周年の記念事業とアメリカ武徳祭が盛大に開催されること、心よりお慶び申し上げます。

戦後間もなく渡米された濱田鉄心先生は、幾多の難関を突破され、当初数名の大学生から始まつて、現在世界四十五ヶ国六千人以上の会員が国際部組織の中で活躍するまでの大発展に導かされました。

その指導力と大日本武徳会の武道を世界にとの情熱に敬服いたします。

私事ながら、私も昨年は、私にとり記念すべき年となりました。東山、将軍塚に青龍殿を落慶することが出来ました。

旧大日本武徳会京都支部道場が京都府の管理下にあり、雨漏りから手当が遅れ大修理の予算がなく廃棄処分となつたものを、何とか保存しようと立ち上りました。五年十一ヶ月に及ぶ対京都府、京都市との許認可交渉を勝ち抜き、十ヶ月の僅かな工期で完成に漕ぎ着けました。

戦前の大日本武徳会の道場が瓦礫の屑になることに、私は最後の総裁を務めた祖父の悲しみ、当時の大日本武徳会の関係諸兄の嘆きの深さに思いを馳せ、何としても保存しようと決心しました。

資金的にも極めて難関でしたが、多くの方々のご援助をいただき実現することができました。誠にありがたいことであります。

目標が高ければ高いほど、それ以上に志を高く掲げることが、物事を成就に導いて頂けると思います。それは人の力を越えた仏様の力に委ねることでもあります。

青龍殿の道場で、大日本武徳会の精神を引き継いだ皆様の、そして日本の武道を導いていく武道の神髄を、遺憾なく發揮して頂くことを強く願います。

本年は大日本武徳会創立百二十周年の節目の年にあたり、大日本武徳会が、日本武道の本流として、名実ともに指導的役割を果たせる会となるよう、その第一歩を力強く踏み出す年となりますことを祈念し、ご挨拶と致します。

青蓮院門跡の慶事  
青龍殿・青不動明王大護摩堂・落慶  
平成26年10月4日

青龍殿落慶青不動明王入仏ご開帳開關護摩法要  
大導師 天台座主 半田 孝淳 猥下  
脇導師 青蓮院門跡 東伏見慈晃門主



錦秋の候 素晴らしい晴天に恵まれて京都東山三十六峰の名峰華頂山・京都市街が一望出来る山上に・青龍殿・青不動明王大護摩堂建立落慶式を迎えて・三笠宮彬子女王各寺の名僧・各界の名士・大日本武徳会・青蓮院・所縁の数百名の慶祝参詣者を擁して

午前11時00分から

大導師 天台座主 半田 孝淳 猥下

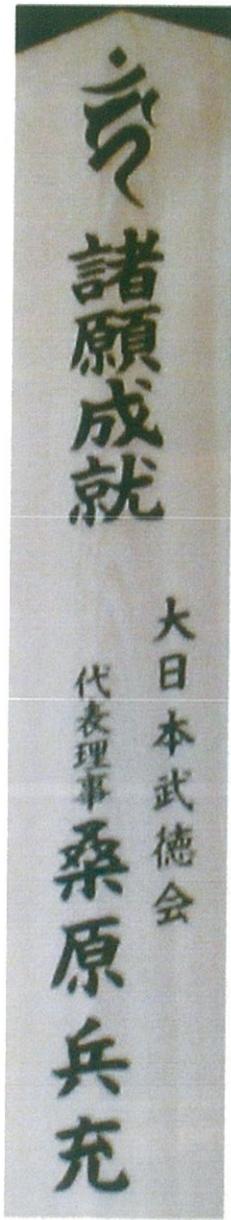
脇導師 青蓮院門跡 東伏見慈晃門主

先導の元

青龍殿落慶・青不動明王入仏ご開帳開關護摩法要が滞りなく厳脩されました

素心

一般社団法人 大日本武徳会 代表理事 桑原 兵充



大日本武徳会 総裁・青蓮院門跡 門主 東伏見慈晃猊下の聰明な英知により  
大正武徳殿の素晴らしい日本国的重要文化建築様式を損なうことなく移設  
京都東山三十六峰の名峰華頂山の頂に復元併せて国宝青不動明王大護摩堂  
の建立・平成二十六年十月四日落慶式・ご賛同頂きました諸賢に深謝厚く  
御礼申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会 代表理事 桑原 兵充

## 未来への期待

濱田 鉄心

今年は太平洋戦争終戦七十周年を迎えた一つの大きな節目の年となる。敗戦後の日本は想像を絶する廃墟と虚無感、飢え、絶望から出発したが戦後日本の経済社会は奇跡とも言える目覚ましい復興を遂げた。

戦勝国であつた欧米諸国は日本の国土を徹底的に破壊したが絶対に破壊できなかつたものがある。それは紛れもなく日本人魂であつた。その堅忍不拔の魂と勤勉さ、そしてひたむきな努力の成果が今日の繁栄をもたらしたのである。しかし、その膨大な社会変化の中には得るものも多くあつたとはい、失つたものも計り知れない。この節目の時代に新たな我が国の歴史観を考察する事は必要であり、避けては歩めない未来へのチャレンジである。いつの時代においても国家や社会、個人も何らかの決断に迫られる岐路に常に直面している事は間違いない。現在も未来も国内や世界からテロ行為が消滅することはない歴史が証明している。それよりもテロがもたらす本質的な目的、即ち恐怖に屈服させることへの狙いに対していくじけない強靭不抜な信念を持つた人格を青少年から築き上げる事が急務である。さらに若い世代が次の時代を担い国際人として活躍するためには外国語や技術力が優秀であることはその条件として考えられる。しかし何よりも日本人としての誇りある自信に溢れた自己存在の意義、即ち本来の確固たる個人アイデンティティを持つことの方がはるかに大事である。これは

与えられるものではなく自らが考え方学し心技体を鍛えて初めて養成できることである。この人格形成プロセスは出来るだけ早い青少年の時代にされるべきである。本会が競技スポーツではなくして伝統武道を通じてその社会教育の過程にどのような貢献が出来るか、これは大きな現実的課題でもあり期待でもある。

本会が法人化し社会的な資格を得て今年で三年目になる。今年大日本武徳会の歴史は創立百二十周年を迎え、その歴史と伝統の重みは一段と増している。本会が平成二十七年度から次の数年間の間に立つ大きな岐路は我々会員全員が力を合わせて立ち向かっていかなければならぬ。その選択の原点は常に襲古還新の哲理であると思う。問題は還新の中核と中身である。そしてその中身をどのように実践するかであると思われる。依つて、具体的にその対策をじっくりと熟慮検討していただき、会員一人一人がそれに対して少しでも貢献していただく事が、本会の未来的発展に繋がると確信する。最大の構造的な問題は会員数がこの十年間で自然消滅のために減り続けて来たということである。我々はここで果敢な努力をし、未来的な目標として現在の会員数を二倍にすることを掲げ、全団体長・支部の指導力によつて総力をつける事が大事である。青少年会員も一段と増加させねばならない事は大きな課題である。さらに本会の重要な武道指導者である武道執行専門委員各位には大きな期待が寄せられている。本会の未来的発展の為にはまず総合的な組織体力を促進させる事が最大の課題であると考える。

平成二十七年度国内主要事業は本会理事会と定時社員総会において以下に承認された。

一、四月二十八日武徳殿・高段者審査会

四月二十九日武徳殿・第五十三回全国武徳祭

(本会創立百二十周年記念全国武徳祭)

二、六月七日・第二十二回巖島神社古武道奉納演武大会

三、七月二十日・第二十一回全国青少年武徳祭

四、十月二十五日・第二十一回平安神宮古武道奉納演武大会

五、青龍殿古武道大会は未定検討事項

六、春号・秋号会報出版事業

海外主要事業

三月二十一日～二十九日・アメリカ支部創立五十周年記念・アメリカ

武徳祭

さらに、二〇一六年度四月には第五回世界武徳祭が企画されており、本会がさらなる国際的発展をする事が期待されている。

以上に列記した本会主催事業は大日本武徳会創立百二十周年という歴史の重みと伝統の素晴らしいを継承した我々が、さらに新しい歴史の一ページを刻みこむ為に実施するものである。これらは本会の趣旨目的を貫徹する上に重要な使命を果たすべく企画されたものである。

一つ一つの事業が大切な役割を果たす事は言うまでもない。会員全員の協力態勢で必ずや意義深い成果が生まれる事業になると確信したい。

投じる必要がある。何故ならば今実行が必ず未来にインパクトを与えるからである。生を受けたものが生者必滅である事は宇宙の真理である。いずれ年老い朽ち果てる時が必ず来る。それ故、少しでも動ける時期に今何が出来るかをじっくりと考え躊躇せずに実行する事で誰もが貢献できると思う。そのひたむきな姿が必ず多くの人々の心を打つと思われる。

武士道において侍は臥薪嘗胆、死ぬまで引退など一切ないと教えられてきた。大日本武徳会においてその様な力強い侍魂の確固たる集団が今お互いに協力し合って一層努力する事で新しい世界平和に大きく貢献する日本の未来と世界の未来を築き上げられることが期待できる。全ては常にここからはじまるという気概を忘れず、先人の御恩も忘れず、前向きに思考して全員一丸となつて前進していくば新しい活路は見出せると信じたい。

今年の第五十三回全国武徳祭は本会創立百二十周年記念大会として実施されるが、会員全員が精力的に参加して盛り上げていく事で必ず素晴らしい大会になると期待する。今年のアメリカ支部五十周年記念・アメリカ武徳祭は既に発動しエネルギーに溢れた形で着々と進行している。来年度の第五回世界武徳祭の準備も既に始まっている。時の流れは人を待つことはない。我々が与えられた時の中でその貴重な機会を全うすべきである。

次の数年間、本会で企画されている全ての事業において本会の先生方による日本武道の素晴らしい静と動の美の世界がもたらす奥深い感動は国内のみならず世界に大きなインパクトを与えるに違いないと確信したい。

私達は武道家として明日何をするかよりも、今何をするかに全力を



一般社団法人 大日本武徳会

第二回定期社員総会 及び  
第五回武道執行専門委員会

開催日 .. 平成二十七年二月八日 日曜日

場所 .. 新・都ホテル（京都駅八条口）

## 第二回定期社員総会の報告

平成二十七年二月八日（日）午後一時から京都・新都ホテル、末広の間において、一般社団法人大日本武徳会 第二回定期社員総会が開催された。

左記のとおり決議されたので、ご報告いたします。

### 記

#### 報告事項 平成二十六年度監査報告の件

（平成二十五年十二月一日から平成二十六年十一月三十日まで）

#### 第一議案 平成二十六年度事業報告書、平成二十六年度収支決算

#### 書承認の件

原案どおり承認決議された

#### 第二議案 平成二十七年度事業計画書、平成二十七年度収支予算書の件

原案どおり承認決議された

#### 第三議案 定款・内規（諸経費）変更の件

原案どおり承認決議された

#### 第四議案 理事選任の件

桑原兵充、濱田博之（鉄心）、中田武太、高田寛次、竹田豊の五名が再選された

### 第五議案

新しく藤井正巳、山本勝（楠城）の二名が理事に選任された

監事選任及び退任の件  
新しく川村八朗が監事に選任された

村田雅人は退任した

なお、臨時理事会において、代表理事に濱田博之（鉄心）が互選され、就任した

一般社団法人大日本武徳会のさらなる発展に尽力致しますので、今後とも会員の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

一般社団法人大日本武徳会  
代表理事 濱田 鉄心



## 第五回武道執行専門委員会の報告

平成二十七年二月八日（日）京都・新都ホテル、末広の間において一般社団法人大日本武徳会 第五回武道執行専門委員会が開催された。

定刻午前十時、第五回武道執行専門委員会司会進行の濱田理事があつた。

会を告げ、始めに桑原武道執行専門委員長の挨拶があつた。武道執行専門委員は、武道及び運営等の活動の中核をなし、多方面に亘るリーダーシップが要求されると司会進行濱田理事から説明がされた。

会議は本会初となる試みで、武種別に居合道三卓、空手道、剣道、柔術、古武道の全七テーブルに分かれ、テーブルごとに協議した。

その目的は次の三点である。

- 一、武種別の横の連携を図り理解を促進させること
- 二、武種別の発展に対する協議を促進させること
- 三、円卓会議での発表結果を理事会に提案すること

円卓会議での討議項目は次の四点である。

- 一、内規項目については資格と役割について
- 二、大会検証委員、大会管理運営委員の役割と責任について
- 三、高段者審査会について資格、基準、方法について
- 四、武種に関して発展、促進させる事の提案

以上の目的と項目に沿って円卓会議が実施された。



午後〇時、中田居合道統括委員長の閉会の挨拶で、第五回武道執行専門委員会は閉会した。

まず内規について高田理事が説明した後、四十分間に亘り熱の入った討論が各円卓で展開された。そしてテーブルごとに円卓会議武種別リーダーによつて、その成果が発表された。

内規に關して各テーブルの回答は、さほど差異はなく、大会検証委員の役割と、管理運営委員に関しては様々な意見が発表された。

高段者審査については武種別に検討項目が提案された。

時間不足のため議論できない項目もあつたが、これらの意見はさらに討議していくことで理解を得た。

以上の目的と項目に沿って円卓会議が実施された。

武道執行専門委員長 桑原兵充  
武道執行専門副委員長 高田寛次



第二十回

全國青少年武徳祭  
総裁追悼記念大会

日 時..平成二十六年九月十五日(月・祝)午前十一時三十分

場 所..京都市旧武徳殿

主 催..一般社団法人大日本武徳会

後 援..京都府・京都市

# 大會次第

進行 濱田 鉄心

## ■ 平安神宮 ■ 平安神宮祈願祭 午前11時より

|        |   |     |           |         |
|--------|---|-----|-----------|---------|
| 修<br>奉 | 納 | 演   | 祓<br>武    |         |
|        |   | 空手道 | 日本空手道 拳龍会 | 橋 本 華 沢 |
|        |   | 居合道 | 武道こばと修童館  | 野 村 紗 加 |

## ■ 開会式 ■ 午前11時30分

|                       |                       |                       |                       |   |  |         |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---|--|---------|
| 役<br>員                | 選                     | 手                     | 入                     | 場 |  |         |
| 開<br>大<br>大<br>來<br>選 | 會<br>會<br>副<br>賓<br>手 | 宣<br>長<br>會<br>祝<br>宣 | 言<br>挨<br>拶<br>辭<br>誓 |   | 高 田 寛 次<br>東伏見 慈 晃<br>桑 原 兵 充<br>日本古式武道協会<br>山 本 茉 央 |         |
| 演<br>武                | 上                     | の                     | 心                     | が | け  | 中 田 武 太 |
| 祓                     | の                     |                       |                       |   |  | 大 西 温 子 |
|                       |                       | 居合道                   | 武公館道場                 |   |  | 福 井 来 実 |
|                       |                       | 空手道                   | 日本古式武道協会              |   |  |         |

## ■ 演 武 ■

|        |     |          |   |         |  |
|--------|-----|----------|---|---------|--|
| 演<br>納 | の   | 武        | 儀 |         |  |
|        | 空手  | 武学館      |   | 藤 原 芙綺子 |  |
|        | 古武道 | 日本古式武道協会 |   | 野 村 真由佳 |  |

## ■ 閉会式 ■

|                  |        |        |                  |  |                               |
|------------------|--------|--------|------------------|--|-------------------------------|
| 役<br>表<br>講<br>閉 | 員<br>選 | 手<br>整 | 列<br>彰<br>評<br>言 |  | 東伏見 慈 晃<br>中 田 武 太<br>濱 田 鉄 心 |
|                  |        |        |                  |  |                               |

## 第二十回 全国青少年武徳祭 表彰

### ●特別功労賞【五名】

|     |              |
|-----|--------------|
| 大阪府 | 日本空手道 拳龍会    |
| 大阪府 | 日本古式武道協会 拳正会 |

森崎龍行  
山川拳正  
田中天心  
平野秀雄  
博

### ●団体最優秀賞

大阪府 日本空手道 拳龍会

### ●団体優秀賞【三团体】

大阪府 日本古式武道協会 拳刀会・拳正会  
香川県 首里派空手道協会 武学館

### ●団体奨励賞【三团体】

石川県 武道こばと修童館  
京都府 日本武道空手協会 正守和道塾  
大阪府 心傳流柔術 拓心館

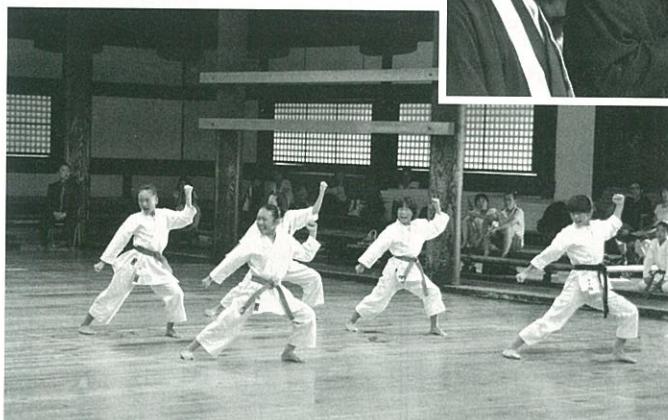
## 御礼の御挨拶

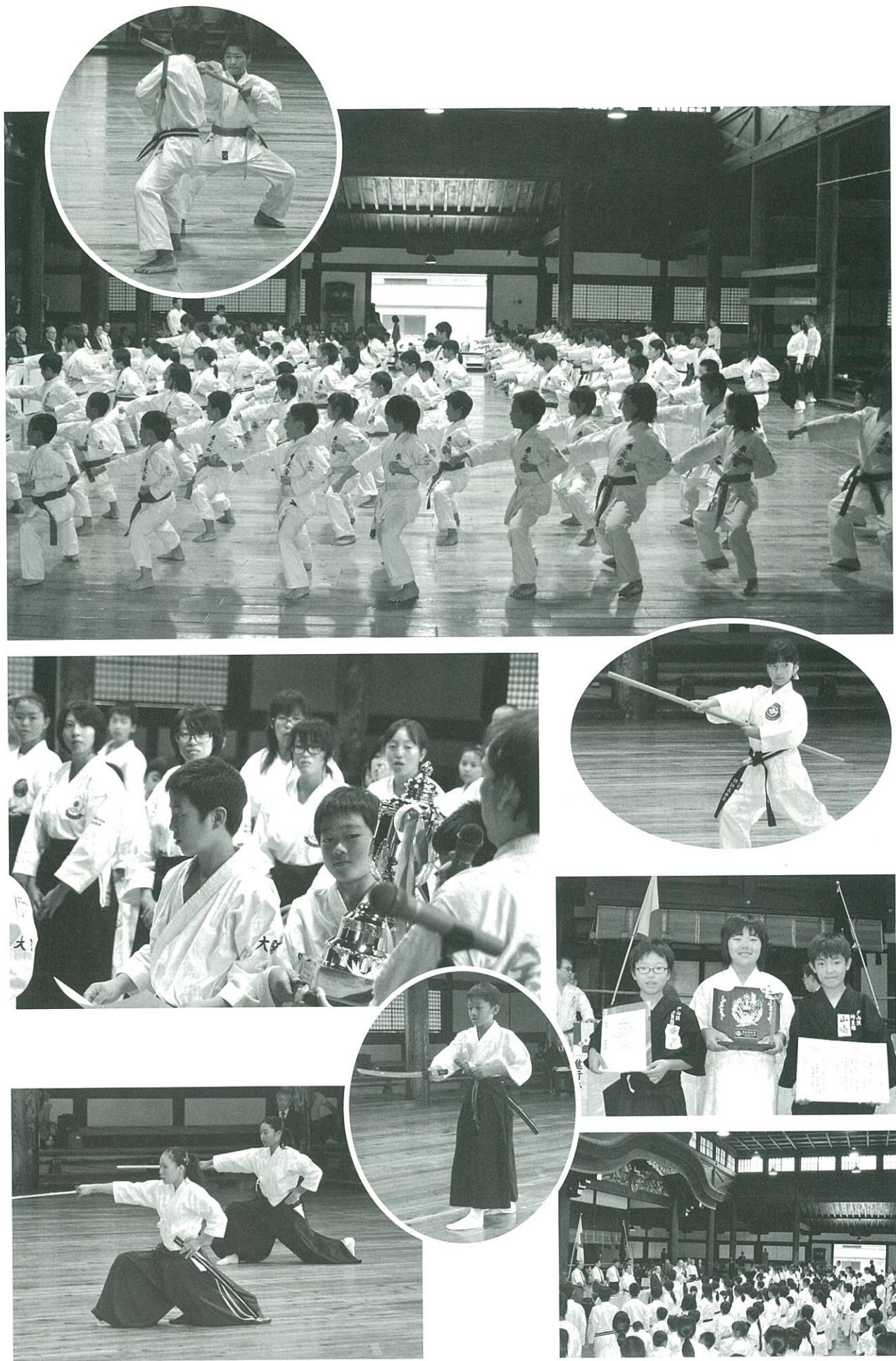
第20回全国青少年武徳祭も皆様の多大なる御協力と御支援によりお蔭様で無事盛大裡に終了致しました。ありがとうございました。

厚く御礼申し上げます。

### ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体(順不同)

| 御芳名     | 金額      | 御芳名     | 金額     |
|---------|---------|---------|--------|
| 桑原 兵充 様 | 250,000 | 村田 雅人 様 | 10,000 |
| 平野 秀雄 様 | 20,000  | 木下 公子 様 | 10,000 |
| 濱田 鉄心 様 | 10,000  | 拳 正 会 様 | 10,000 |
| 高田 寛次 様 | 10,000  | 中森 茂範 様 | 10,000 |
| 中田 武太 様 | 10,000  | 津守 照代 様 | 10,000 |
| 竹田 豊 様  | 10,000  |         |        |







第二十二回

平安神宮古武道奉納演武大会

日 時…平成二十六年十月二十六日(日) 午後〇時三十分

場 所…平安神宮「額殿」

主 催…一般社団法人 大日本武徳会

# 大 会 次 第

◎ 平安神宮祈願参拝 午後12時30分より

## ◆◆◆ 開 会 式 ◆◆◆

司 会 進 行 大会進行委員長 中 森 茂 範

大会進行副委員長 目 黒 信 良

① 開 会 宣 言 大会実行委員長 高 田 寛 次

② 開 会 挨 捶 大会委員長 桑 原 兵 充

③ 演武上の注意 大会進行委員長 中 森 茂 範

④ 祀 の 儀 居合道 教士八段 山 田 文 典

## ◆◆◆ 演 武 ◆◆◆

\*時間の都合上、演武時間は7分以内とする。試斬りは4本以内とする。

## ◆◆◆ 閉 会 式 ◆◆◆

① 納 の 儀 居合道 錬士六段 小 林 信 之

② 講 評 大会副委員長 中 田 武 太

③ 閉 会 挨 捶 大会副委員長 濱 田 鉄 心

## 第二十二回

# 平安神宮古武道奉納演武大会報告

高田 寛次

平成二十六年十月二十六日（日）第二十二回古武道奉納演武大会が、平安神宮額殿に於いて開催されました。

開催に先立ち、本年十月四日「將軍塚山頂青蓮院・青龍殿の落慶法要」が営まれました。国宝青不動明像絵の御開帳を記念し、古武道奉納演武大会に演武される諸先生方八十数名が、本会がチャータードした観光バス二台で青龍殿公式拝観、総裁東伏見慈晃門主自らご多用にも関わらず、青龍殿及び新設された舞台等を詳細に亘りご説明され拝聴し、古武道奉納演武大会の無事を併せ祈願されました。

既にお聞き及びと存じますが、青龍殿と名称が変更されておりますが、以前、「大日本武徳会京都支部旧大正武徳殿」の道場として剣道・柔道を広く市民が利用し親しみ稽古を重ねた時代がありました。七十年前、小生の学区内にあつた事も幸いし、剣道二段を允許され当武徳殿に通い共に汗した懐かしい思い出が残ります。

建物でありますと、年々利用する人口も減少し、終には、風雨に晒され外観のみとなり建物自体も朽ち廃墟と化し無残な光景でしたが、貴重な建造物を未来永劫に保存する事を願望され、総裁東伏見慈晃門主がご嘆願の上、將軍塚山頂に移築・見事に復元されました。

清水寺を遥かに凌ぐ大舞台からは、京都市内を眼下に一望でき、京都を起点に世界各国からの拝観者がこの地を訪れ感嘆し、將軍塚山頂より百年・二百年の歳月をお守り頂けることは京都市民としてこの上もない慶びであります。

平安神宮拝殿での祈願が予定の時間を遙かに過ぎ、先生方には大変ご迷惑をお掛けしました事を深謝いたしますと共に、来期には平安神宮側との連絡を密に二度と斯様な失態のなきよう努めて参ります。

当日は季節柄、十三参り・お宮参りなどなど参拝客で混雑し、更に進学合格祈願者に加え特に海外からの旅行者で賑わっておりました。

旧大正武徳殿（青龍殿）は、現在の旧武徳殿を縮小して造作された

古武道奉納演武大会の会場運営等に携わって頂く、武道執行専門委

員の先生方から管理運営委員を選任し、会場内外の警備・不審者等に対する防犯・演武中の事故防止或は演武時間の告知等を担当して頂きました。

「祓の儀」一心無双流居合道・教士八段・山田文典先生の見事な演武で、三十四組の選り優れた先生方の演武が披露されました。演武制限時間（七分間）を超過され（黄旗）で告知した団体は二団体であり、一団体の演武時間の平均は約五分二十秒でした。

柳生心眼流居合術・鍊士六段・小林信之先生の「納の儀」を以て、本年度の古武道奉納演武大会も大過なく無事納めとなりました。

特筆 本年四月二十八日、高段者昇段審査会に於きまして不運にも僅差で不合格となられました二名の高段者審査会が、古武道奉納演武大会終了後「額殿」にて実施されました。

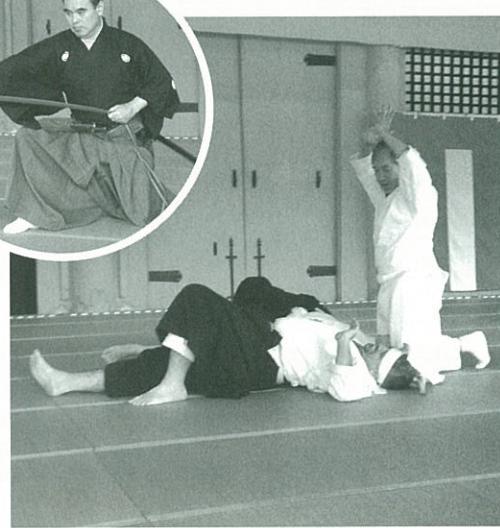
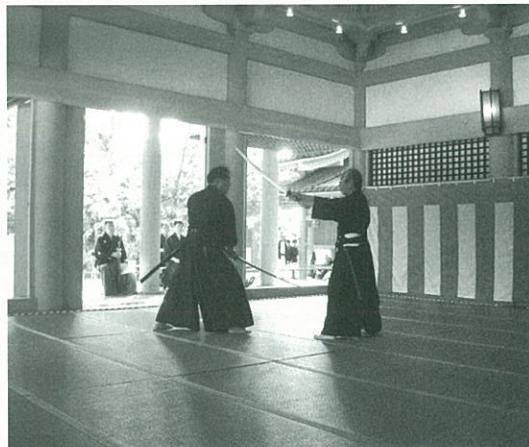
額殿外では、多勢の観光客を交え数十人のギャラリーが日本の武道（サムライ）の一即一刀をカメラに納めようと真剣にシャッターを切つて居られました。六段を受審された男性・七段審査の演武をされた女性、共に迫力ある所作見事でありました。

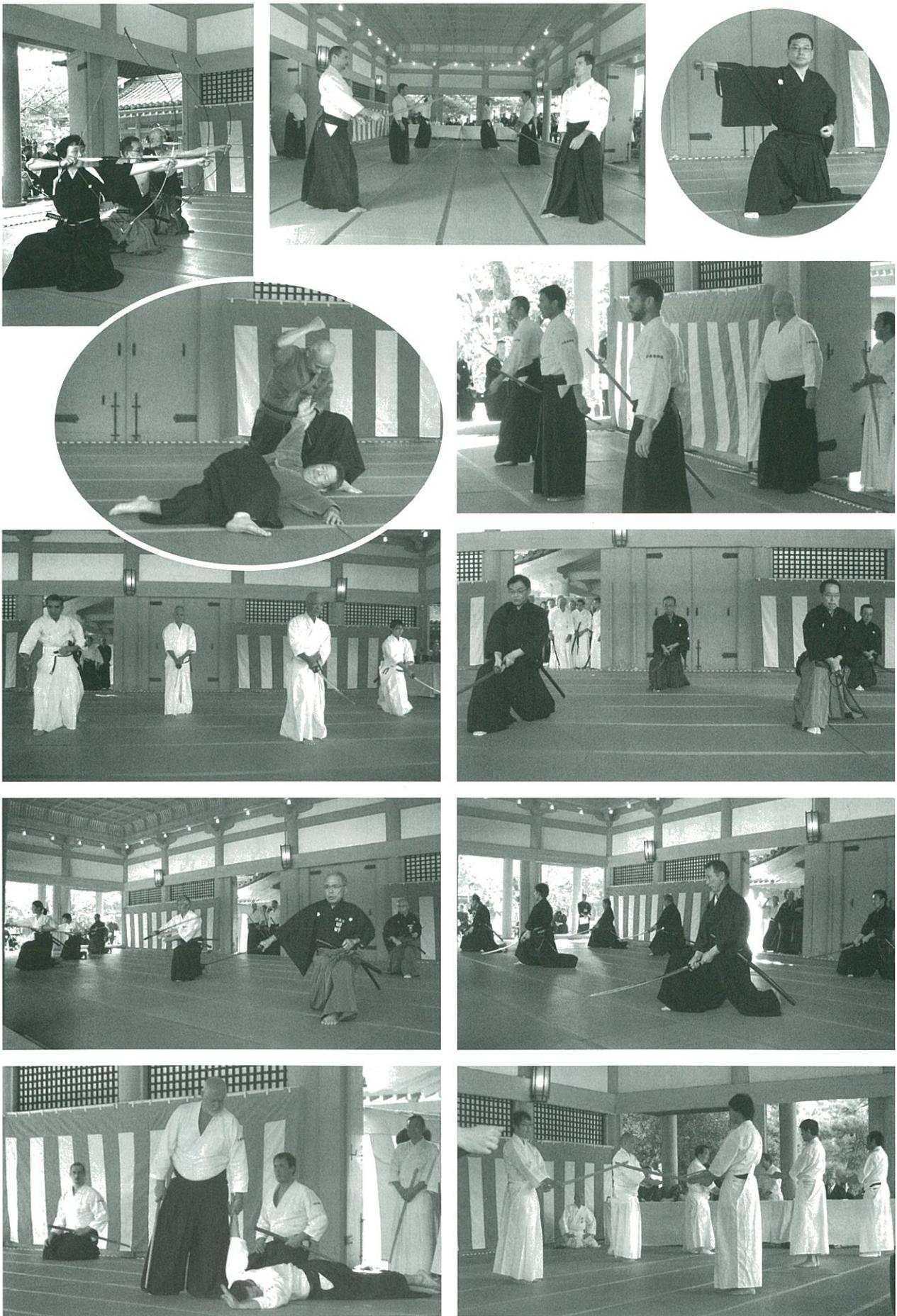
審査統括委員長より、「合格」の判定が下された瞬間、二人は歓びの感激を胸に今以上の居合道に精進されること疑いありません。

秋の陽は釣瓶落と申します。平安神宮の木々も赤い夕陽に染まり、間もなく訪れる紅葉の時期を迎え、来期、古武道奉納演武大会には諸先生方のお元気なお姿・お見事な演武をお待ちしております。

早朝からの青龍殿公式拝観・平安神宮古武道奉納演武大会と大変ご苦労様でした。本大会進行等につきまして多くの反省材料が御座います。実行委員会といたしましては、諸先生方からのご意見などお聞かせ頂き、総意の上更に発展した大会を望んでおります。







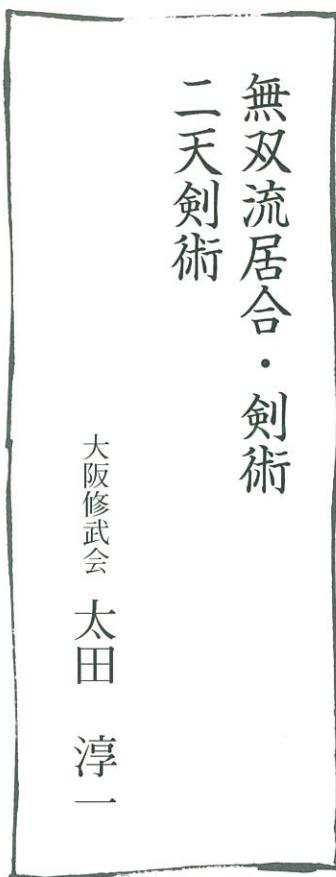
## 団体道場紹介

無双流は、居合術と剣術から成り、表の形としては居合十二本、剣術一本を伝えています。

技の特徴は、一に正しき姿勢をもつて敵に正対すること、二にまず我が身を守ること、三には常に敵を牽制し、抜き付けにおいてすら剣先を相手から逸らさぬところにあります。また、応変の気構えを重視し、いついかなる場合にも状況に対応し得る心身の態勢を求めます。

### 無双流居合・剣術

大阪修武会 太田 淳一



無双流は、正心術たるをもつて、心を鍛錬し、素直な心、心の抜きを体得すべく修練します。武道とは心の修行である、とは 先代の父よりの教えの一でありました。

無双流は、正心術たるをもつて、心を鍛錬し、素直な心、心の抜きを体得すべく修練します。武道とは心の修行である、とは 先代の父よりの教えの一でありました。

二天一流の剣術にあつては、ここに長舌を弄する愚には及びませんが、本会においては、むろん技の正確は申すまでもないことながら、心において、強く、大きく、堂々と、氣位を重視して稽古しております。

### 二、活動状況

本部 大阪市城東区野江四一  
三一二二十七 樓並会館

稽古は毎週土曜日  
午後六時～九時

淡路島支部 每週日曜日  
年間六回程度、大会演武等に

熊本にあつて家伝の流儀ではございましたが、伝書等の散逸により、今日では、残念ながらその道統は分明ではありません。齡八歳の折、心して父より無双流居合、剣術、二天一流と習い始めましたが、文字通り身をもつて体で習い覚えてまいつたわけでございます。

武道とは攻めるものにあらず、身を守る技であるという厳しい教えを座右に、ひたすら修行に打ち込んで今日に至り、現在は門弟と一丸、無双流居合、剣術、ならびに二天剣術の稽古を通して、弛まぬ修行を続



# 支部だより

発信をし、会員一同心を一つにして、発展していきたく思っております。

一般社団法人大日本武徳会役員の先生方、各派・団体の先生方、今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。

## 広島県支部の役員の改正

広島県支部  
事務局 岡崎 清

一般社団法人大日本武徳会広島県支部は平

成二十七年一月十八日（日）に一般社団法人大日本武徳会の役員『代表理事 桑原兵充先生、理事 濱田鉄心先生、理事 竹田豊先生』のご臨席を賜り、一般社団法人大日本武徳会主催により、第一回広島県支部会議を開催いたしました。

新たに、広島県支部長は、範士 中丸元夫が就任いたしました。

広島県支部は、事務局をより開かれたものとし、新しい役員によるスムーズな運営が行えるような体制をとり、適正な情報収集及び

## 平成二十六年 大阪府支部武道研修会

開催する

大阪府支部長 村田 雅人

## 嚴島神社奉納古武道演武大会開催

昨年の第二十回記念嚴島神社奉納古武道演武大会は、皆様のご協力を賜り開催することができ誠に有難うございました。本年も一般社団法人大日本武徳会の後援事業として承認を頂き、平成二十七年六月七日を開催日として、広島県支部会員一同準備を致しております。

住吉武道館の清澄なる雰囲気の中、まず、

村田雅人支部長の開会の挨拶に始まり、一般社団法人大日本武徳会本部よりご臨席を賜りました代表理事桑原兵充先生の心のこもったご祝辞を頂きました。また住吉武道館長森政暉先生より温かい励ましのご祝辞を頂きました。今回は、大阪府支部の拡大、発展を思量し柔道場、剣道場の仕切りを取り外し、道場をより広く活用できるように致しました。また、武道研修会の性質上、各演武に対する解説を頂くと共に、検証委員、会場係を設け、

## 第二十七回 名城大学古武道大会報告

名城大学体育会居合道部  
主将 半田 祥樹

励まなくてはならないと身が引き締まりました。  
最後になりましたが、大日本武徳会の先生方のご協力により、今大会も無事三十七回を終了することが出来たことに深く感謝申し上げると共に、大日本武徳会の御発展と御繁栄をお祈り申し上げます。

サムライの刀に  
まつわる悲劇と  
斬れる試斬り刀

大日本武徳会 新誠館 美野 清孝



平成二十六年七月六日、名城大学内体育館にて第三十七回古武道大会が一般社団法人大日本武徳会及び中日新聞社の後援により開催されました。来賓には一般社団法人大日本武徳会の理事である濱田鉄心先生、同じく理事の竹田豊先生に御臨席いただきました。

名城大学古武道大会は二年前より学生の交流を深めるという目的で学生のみの大会となり、各大学体育会による日頃の鍛錬の成果を発表しました。当日は天候に恵まれ、学生の活気ある演武により盛大な大会となりました。各大学の平素の稽古の成果を目の当たりにし、伝統ある古武道が私たち若い世代に脈々と受け継がれていることを感じ、先生方、先輩方が教えていたいことを後輩へ伝えていかなければならぬと再認識し、益々稽古に



文永の役一二七四年、蒙古襲来のとき名乗りを上げて一騎打ちの戦術しか知らない日本軍は大敗してしまいます。敵は皮の鎧で身軽です。この時代、日本の太刀は重ねの厚い刃肉の付いた蛤刃で日本の硬い鎧を斬る為の太刀で蒙古軍の皮の鎧ごと一刀両断する事が出来る構造でなかつたことも敗北につながったと記録に残り、以来匠らは、次の蒙古襲来に備え、皮の上からでも斬れる重ねが薄く身幅のある刃肉の少ないカミソリ刃の太刀を考案したとされています。

私の地元福島県でも元禄一六九七年、会津の刀匠三代長道（初代三善長道は最上大業物新撰組局長近藤勇の愛刀）と会津四代兼定（十一代和泉守兼定は新撰組副長土方歳三の愛刀であります）の有名である）、その両